

機能別のみどりの現状 調査結果

①環境保全機能

- ア. 環境保全機能のまとめ
- イ. 植生図
- ウ. 人工林・天然林
- エ. 「優れた自然」と「身近な自然」
- オ. 良好な植生群・野生動物生息地
- カ. 生物の分布状況
- キ. 都市環境林

②都市環境機能（景観・観光）

②-1 みどりの景観特性

- ア. みどりの景観特性まとめ
- イ. みどりの市民アンケートによる市民の「札幌の原風景」
- ウ. 札幌の景観に関するアンケートによる「市民が感じる自然の魅力」
- エ. 保存樹木および保存並木・景観資産の指定
- オ. 札幌市にある各種百選のうちみどりや自然に関する資源
- カ. 各区発行物に掲載されているみどりの資源
- キ. 市民の投票による景観資源
- ク. 札幌市都市景観賞のみどりに関する受賞施設
- ケ. 札幌市の主要な眺望点・ビューポイント

②-2 みどりの観光特性

- ア. みどりの観光特性のまとめ
- イ. 観光情報サイトで紹介されている自然と公園
- ウ. 来札観光客の訪れた場所ランキング
- エ. 旅行情報サイトによるおすすめランキング

②-3 地表面温度分布

③レクリエーション機能

③-1 レクリエーション施設特性

- ア. レクリエーション施設特性のまとめ
- イ. 自然系レクリエーション機能
- ウ. 風景系レクリエーション機能
- エ. こども系レクリエーション機能
- オ. 文化・歴史系レクリエーション機能
- カ. スポーツ系レクリエーション機能
- キ. 炊事施設

③-2 レクリエーション利用特性

- ア. レクリエーション利用特性のまとめ
- イ. 「公園利用届」に見る地区特性
- ウ. 活動分類毎の届出状況
- エ. 「指定管理者報告書(公園利用促進事業)」実施状況

④コミュニティ形成機能

④-1 公園利用届等に見るコミュニティ活動

- ア. コミュニティ活動のまとめ
- イ. 「公園利用届」に見る地区特性
- ウ. 活動分野毎の届出状況

④-2 市民参加・ボランティア活動

- ア. 市民参加・ボランティア活動のまとめ
- イ. 「歩道美化事業」に見る地区特性
- ウ. 「マイタウン・マイフラワー事業」に見る地区特性
- エ. 「街区公園等管理業務委託」に見る地区特性
- オ. 「公園ボランティア登録制度」等に見る地区特性

(4) 機能別のみどりの現状

札幌市のみどりについて、下記の4つの機能別のその現状を整理する。

①環境保全機能

札幌市の自然特性の分類・図化は、下記の項目で行なった。

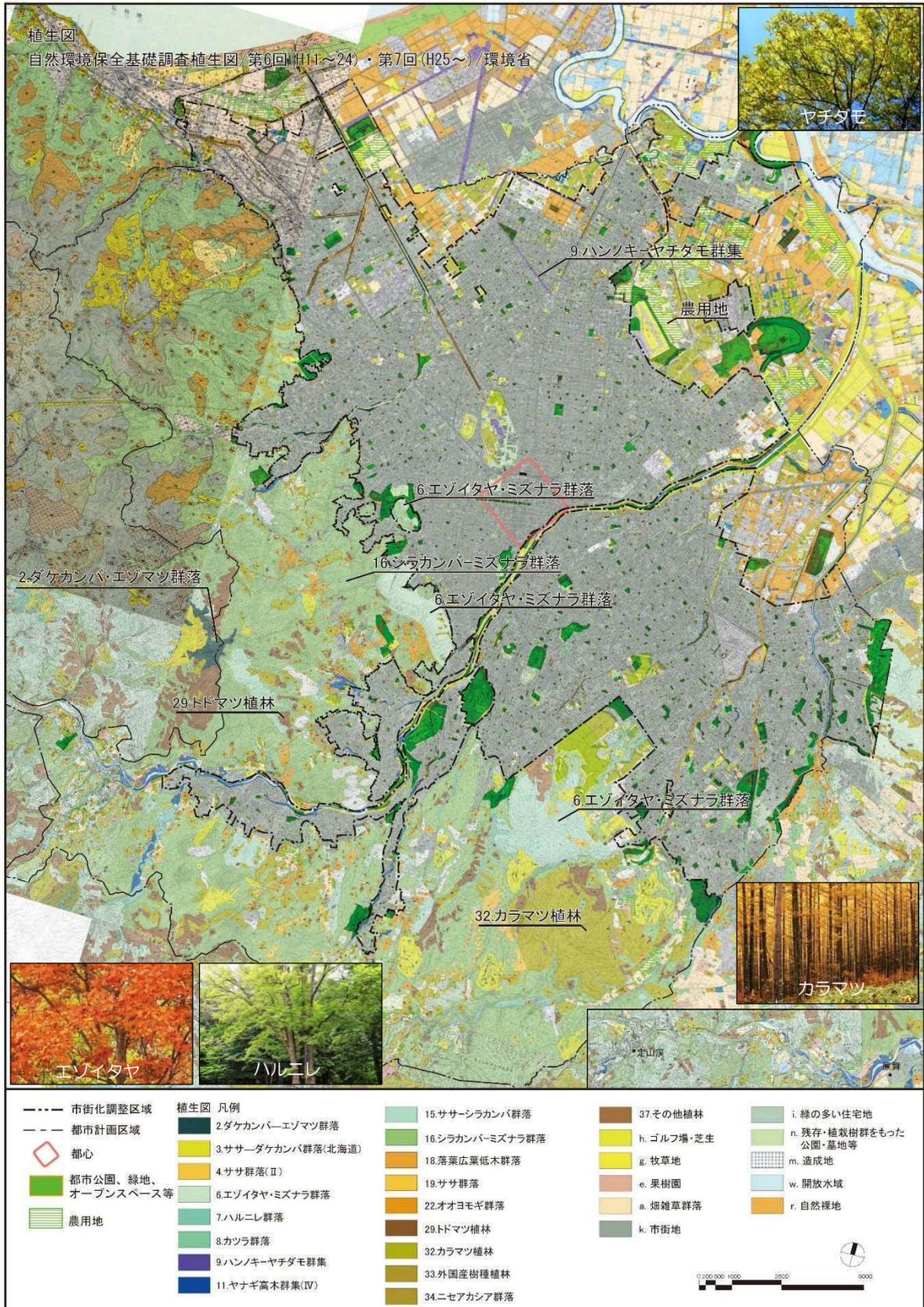
- ア. 環境保全機能のまとめ
- イ. 植生図
- ウ. 人工林・天然林
- エ. 「優れた自然」と「身近な自然」
- オ. 良好な植生群・野生動物生息地
- カ. 生物の分布状況
- キ. 都市環境林

ア. 環境保全機能のまとめ

- ・札幌市の自然植生は、西～南側の山並みや丘陵系が骨格を占めている。
- ・山地丘陵系のみどりは天然林の占める割合が高いが、一部に人工林がまとまって占めている地区もみられる。
- ・天然林の一部は自然度の高い貴重な植生群落がみられ、特に円山・藻岩山・野幌などの原始林が市街地近傍に位置していることが特徴的である。貴重な植生群は自然保護地区等により保全されている。
- ・これらの山並みは広く市街地から眺望でき、札幌のみどりを特徴づけているといえる。
- ・北部では一部にペケレット沼などの自然豊かな湖沼があるものの、概ね農地が広がりっており、玉ねぎ畑など札幌らしいの農風景を形成している。また耕作放棄地や土地利用の混乱等による自然の喪失がみられる。
- ・市民参加によるさっぽろ生き物調査では、市街地全域において広く野生生物の生息・生育状況が報告されている。

イ. 植生図

- 平地部の植生は、冷温帯(ミズナラ-ブナクラス域)に属する。
- 市街地に近い山地丘陵部ではシラカンバーミズナラ群落、山地部でエゾマツやトドマツ等も多くなる針広混交林となっている。低地部ではヤチダモ-ハンノキ群集が分布している。



参考：植生図の主な凡例

• ダケカンバ・エゾマツ群落

北海道のコケモートウヒクラス域に分布する常緑針葉樹、落葉広葉樹の混交する高木林。エゾマツ、ダケカンバが混生する。針葉樹林帯（エゾマツ―トドマツ群集）とダケカンバ帯（ササ―ダケカンバ群落等）との移行帯の植生である。

• エゾイタヤ・ミズナラ群集

ブナが分布しない北海道の黒松内低地以北を中心に分布する、ブナクラス域の山地および丘陵地の落葉広葉樹林。シナノキ、エゾイタヤ、ミズナラ、ヤチダモ等の落葉広葉樹が多数生育するが明瞭な優占種がなく、常緑針葉樹のトドマツが低被度で混生する。伐採や針葉樹の択伐等人為的影響を受けた結果、他の群落から退行したものも多く、群落の区分は明瞭でない。針葉樹が択伐された場所では、大径木の樹木群の間にササが繁茂する安定した森林構造を失ったものがみられる。また、伐採の回数が少ない場所では、組成、相観とも自然林に近くなるまで回復したものもある。

• ハンノキーヤチダモ群落

ブナクラス域の山地の谷間や湧水辺等に成立する落葉広葉樹の自然林。ハンノキが優占し、ヤチダモが混生する。低木層は未発達であるが、草本層はオオカサスゲ、ハリガネスゲ等のスゲ類が優勢で、種類が豊富であり、タチアザミ、ミズバショウ、タチギボウシ、ヤナギトラノオ、タニヘゴ等群集を特徴づける種を含む。泥炭の堆積した過湿地に成立し、北海道から本州の中国地方まで、日本海型気候の影響下にある地域を中心に分布する。

• シラカンバーミズナラ群落

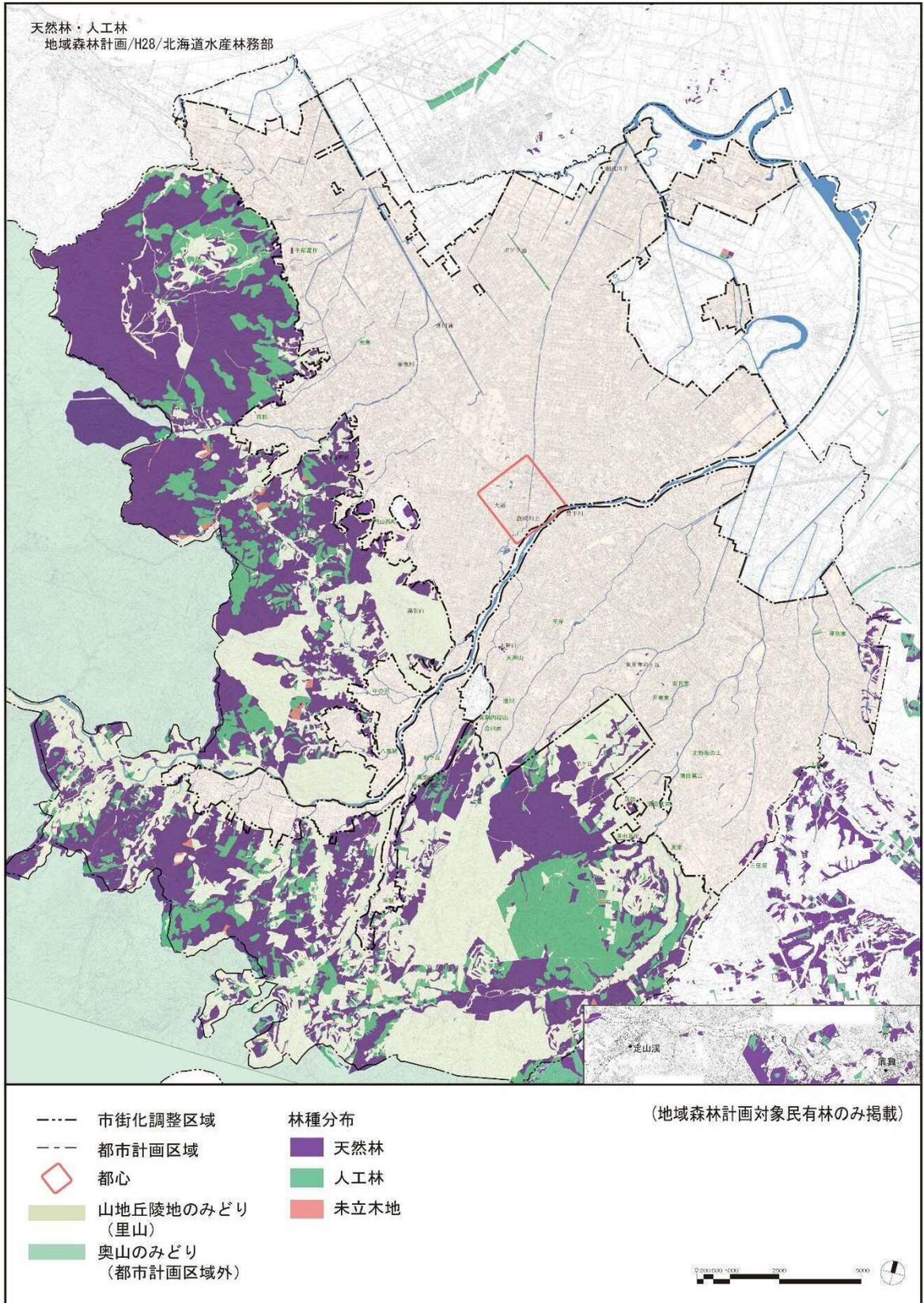
ブナクラス域において、北海道の黒松内低地以北に分布する針広混交林域の二次林。高さは時に 10m以上に達する。シラカンバ、ウダイカンバ、ケヤマハンノキ等先駆植物が混生する林分、林冠が平滑な林分、小径木が密生する若い林分、第2回―第5回植生調査植生図で伐採跡地だったところ等、二次林と明瞭に判断できるもの。

• トドマツ植林

北海道の針葉樹誘導林。トドマツを主木とし、ケヤマハンノキ、ハリギリ等を混生する森林群落。亜高木層、低木層は未発達ながら、草本層にはフッキソウはじめ多種類の森林植物が生育する。道有林として永年にわたる施業（広葉樹除伐とトドマツ実生育成）の結果として成立したもので、種組成は針広混交林と変わらないが、地域の特徴を示す群落として区分する。

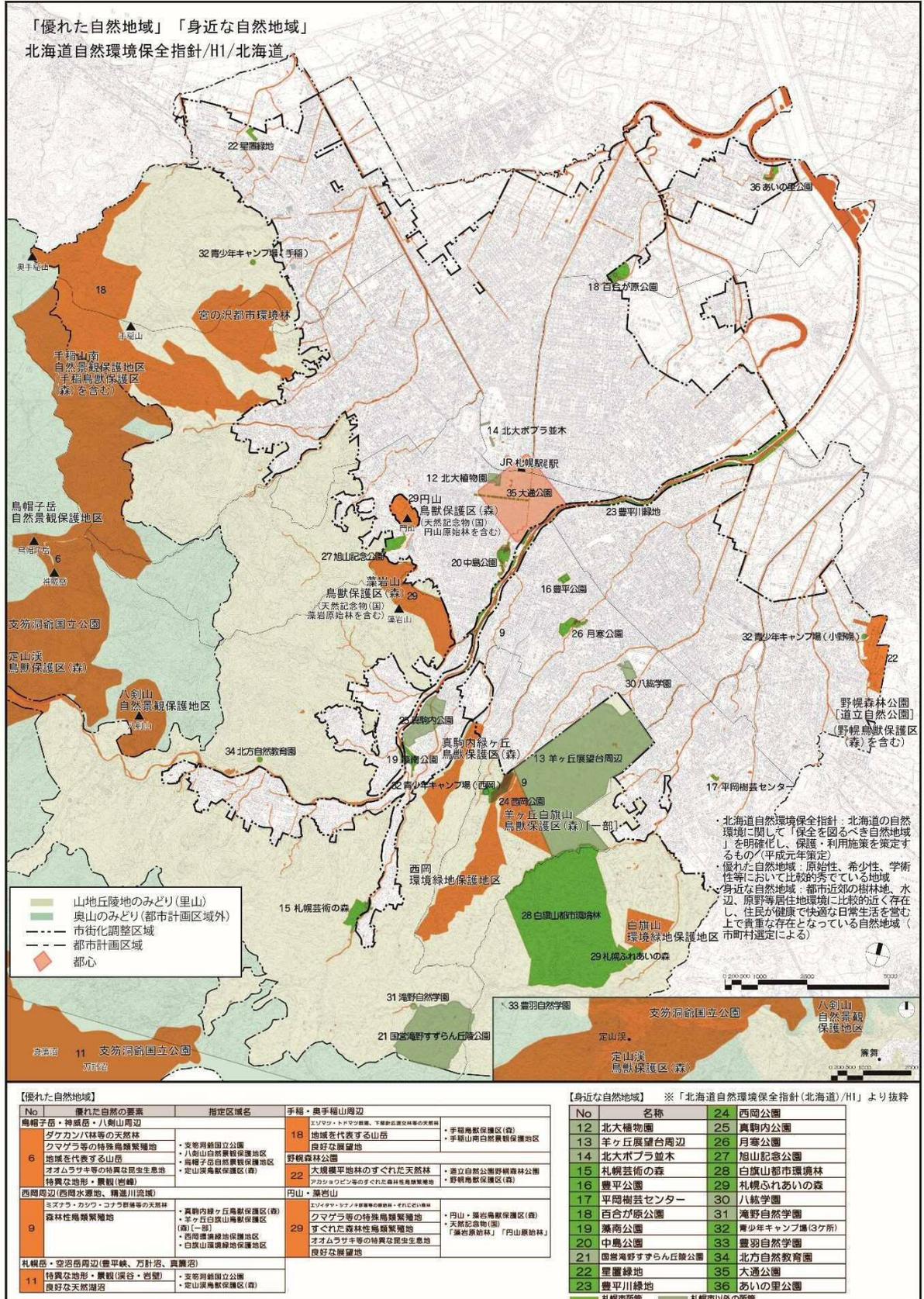
ウ. 天然林・人工林（北海道水産林務部森林計画課資料より）

- 西部から南西部にかけて、エゾイタヤ・ミズナラ等から構成される天然林が分布している。＊市街地全体の森林（約65.5万ha）のうち、自然林は約83％）
- 市街地に近い部分では、カラマツやトドマツ等の人工林も多く、白旗山周辺ではカラマツ林のまとまった広がりがみられる。



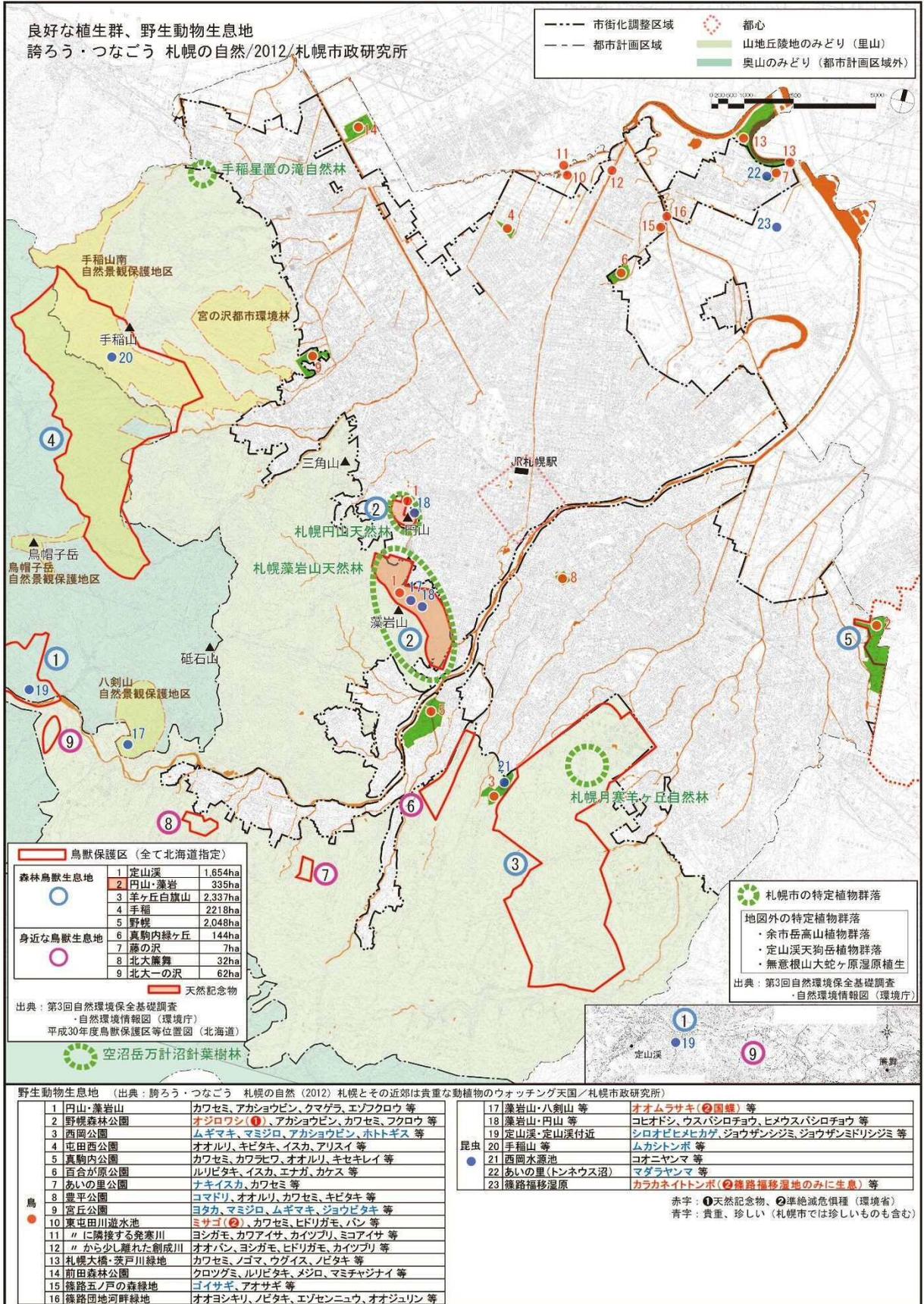
エ. 「優れた自然」と「身近な自然」

- ・優れた自然は、西部の手稲山から烏帽子岳にかけての山地系の天然林のほか、円山・藻岩山、野幌森林公園など市街地に近い位置でも分布している。
- ・身近な自然は、都心部や市街地近傍に分布しているほか、白旗山でも親しまれている。



オ. 良好な植生群・野生動物生息地

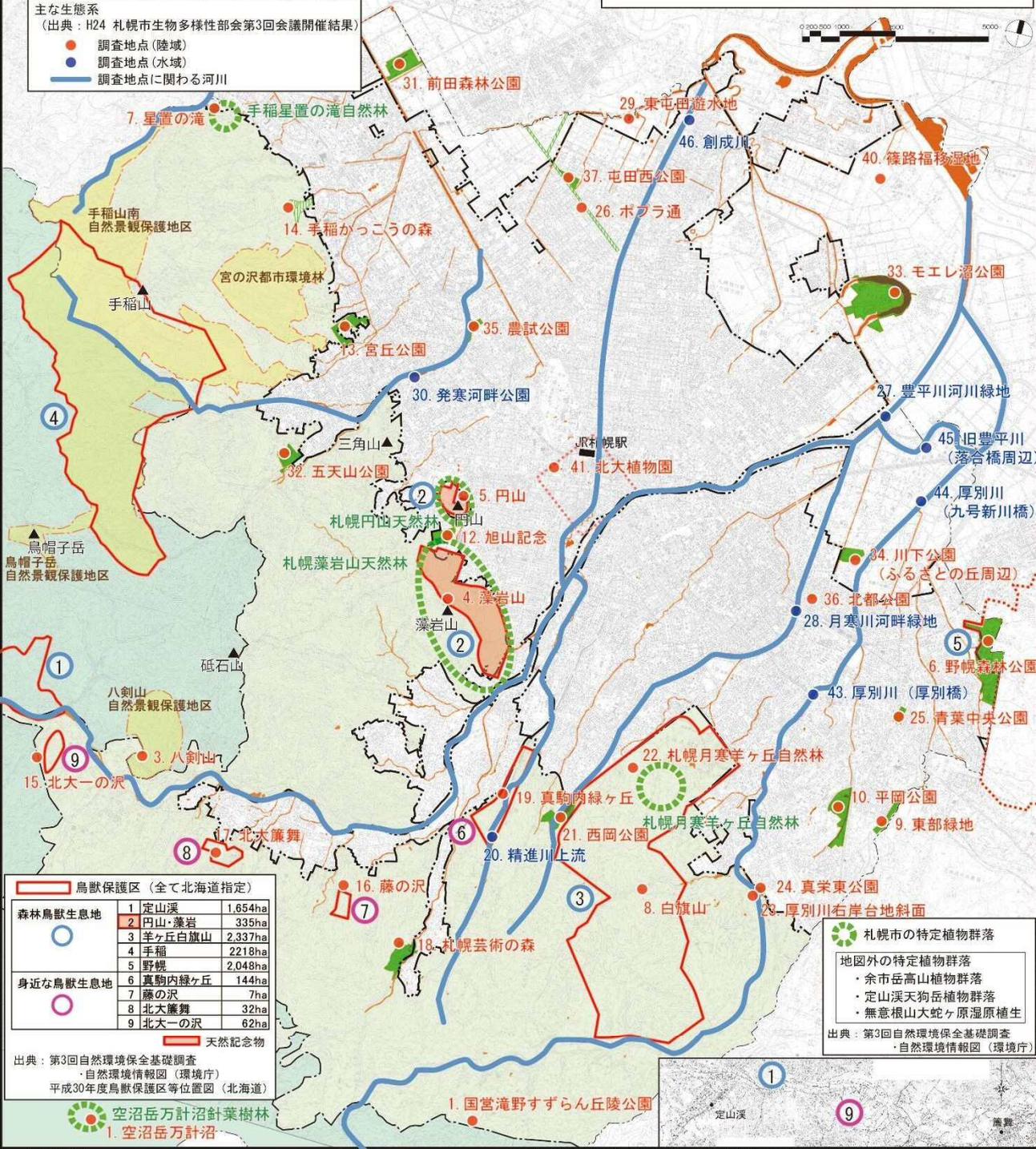
- 良好な植生群や野生動物生息地は、山地系の森林を中心に分布するほか、市街地外縁に規模が小さいながら点在する状況となっている。
- これらは河川・公園緑地として保全されているなど市民に身近なものも多い。



良好な植生群、野生動物生息地
「H24 札幌市生物多様性部会 現地調査結果」

主な生態系
(出典：H24 札幌市生物多様性部会第3回会議開催結果)
● 調査地点(陸域)
● 調査地点(水域)
— 調査地点に関わる河川

--- 市街化調整区域
--- 都市計画区域
● 都心
■ 山地丘陵地のみどり(里山)
■ 奥山のみどり(都市計画区域外)



鳥獣保護区(全て北海道指定)		
森林鳥獣生息地	1 定山溪	1,654ha
	2 円山・藻岩	335ha
	3 羊ヶ丘白旗山	2,337ha
	4 手稲	2218ha
	5 野幌	2,048ha
身近な鳥獣生息地	6 真駒内緑ヶ丘	144ha
	7 藤の沢	7ha
	8 北大麓舞	32ha
	9 北大一の沢	62ha

○ 天然記念物
出典：第3回自然環境保全基礎調査
・自然環境情報図(環境庁)
平成30年度鳥獣保護区等位置図(北海道)

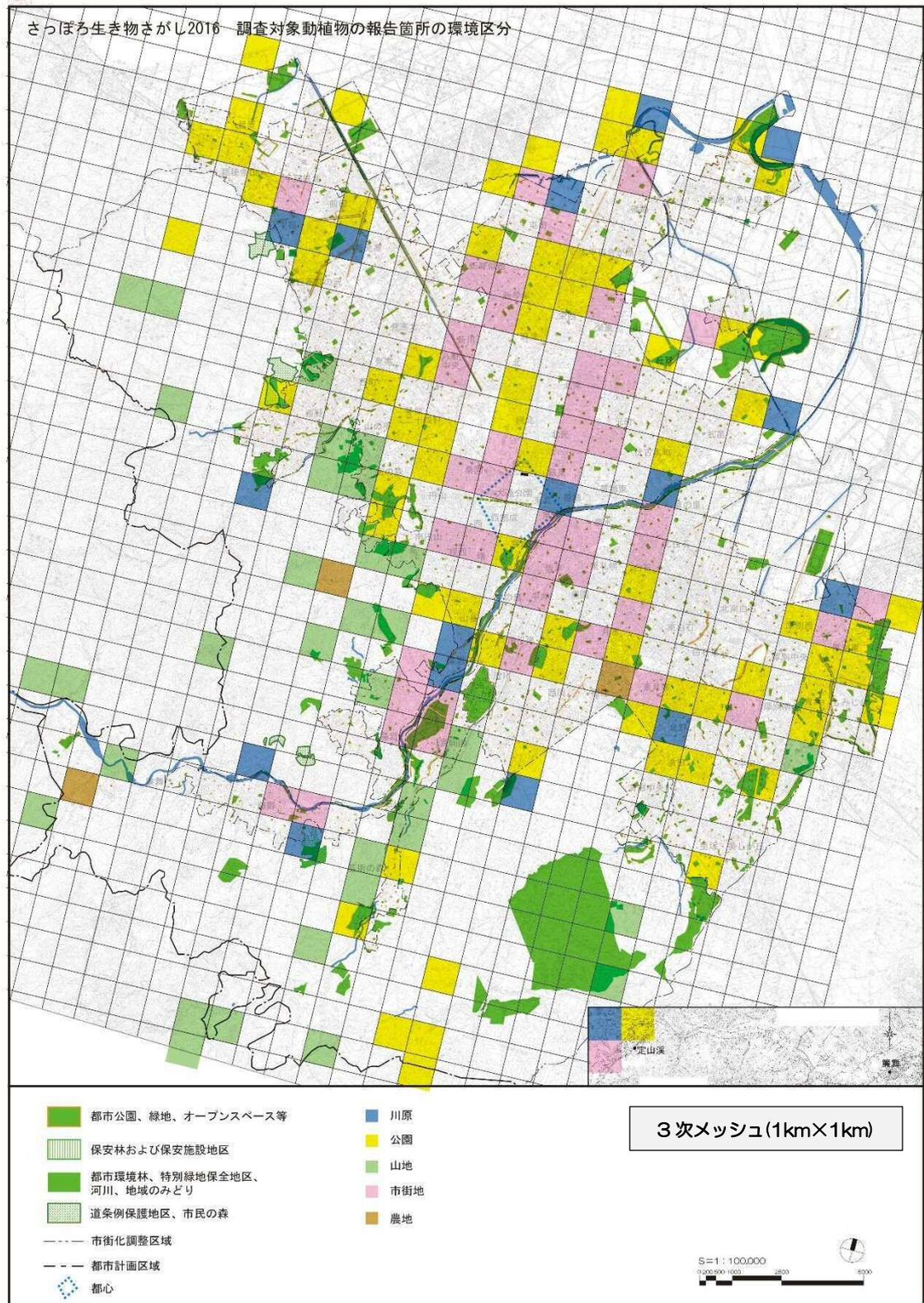
● 札幌市の特定植物群落
● 地図外の特植物群落
・余市岳高山植物群落
・定山溪天狗岳植物群落
・無意根山大蛇ヶ原湿原植生
出典：第3回自然環境保全基礎調査
・自然環境情報図(環境庁)

主な生態系 (出典：H24 札幌市生物多様性部会第3回会議開催結果「現地調査結果」) ※地図外：2.奥手稲、38.無意根山大蛇ヶ原、39.中山湿原、42.薄別川、47.定山溪ダム・さっぽろ湖、48.豊平峡ダム					
No.	代表的な周辺植生	確認動物	No.	代表的な周辺植生	確認動物
1	エゾマツドトマツ群集	クジャクチョウ、アキアカネ、マイマイカブリ等	33	ススキ草原	マガモ等
2	エゾマツ-ダケカンバ群集	アキアカネ、キジバト、サッポロカビイタダ等	34	市街地	ノシメトンボ、アキアカネ、モンキチョウ等
3	エゾイタヤ-シナノキ群集	カラス、センゾコガネ、マイマイカブリ等	35	緑の多い住宅地	
4	エゾイタヤ-シナノキ群集	キツネ、エゾリス等	36	市街地	
5	エゾイタヤ-シナノキ群集	エゾリス、シジュウカラ、ハシブトガラス、アカゲラ等	37	造成地	ハシブトガラス
6	エゾイタヤ-シナノキ群集	トンボ類、カラス等	38	エゾマツ-ダケカンバ群集	ゴジュウカラ、イタドリ、キジバト等
7	エゾイタヤ-シナノキ群集	カラ類等	39	ササ-タケカンバ群集	キツネ、エゾシカ、エゾノシジョウウオ等
8	エゾイタヤ-シナノキ群集	エゾリス、シカ、キツネ、クマゲラ等	40	耕作放棄地 雑草群落	アオヤンマ、ムクロジ、カワラナド等
9	エゾイタヤ-シナノキ群集	キツネ、シジュウカラ、ハシブトガラス等	41	緑の多い住宅地	ハシブトガラス、スズメ等
10	エゾイタヤ-シナノキ群集	キツネ、トビ、オオルリ、クロツグミ等	42	下部針広混交林	クマゲラ
11	エゾイタヤ-シナノキ群集	キツネ、エゾリス、クマゲラ等	43	ススキ草原	ドバト、ノシメトンボ、アキアカネ
12	緑の多い住宅地	ヒゲナシ、キツネ、シジュウカラ等	44	ススキ草原	ヒナバタ多数、ノシメトンボ、アキアカネ等
13	エゾイタヤ-シナノキ群集	ヒゲナシ、キツネ、エゾリス等	45	耕作放棄地 雑草群落	トビ、ハシブトガラス、アオサギ等
14	エゾイタヤ-シナノキ群集	ヒゲナシ(情報)	46	耕作放棄地 雑草群落	(情報)カイツリ、マガモ、コガモ
15	エゾイタヤ-シナノキ群集	アカゲラ、ハシブトガラス、シジュウカラ。(情報)	47	下部針広混交林	カラ類、カラス
16	エゾイタヤ-シナノキ群集	アキアカネ、アラバシ、ヒヨドリ等	48	下部針広混交林	カラ類

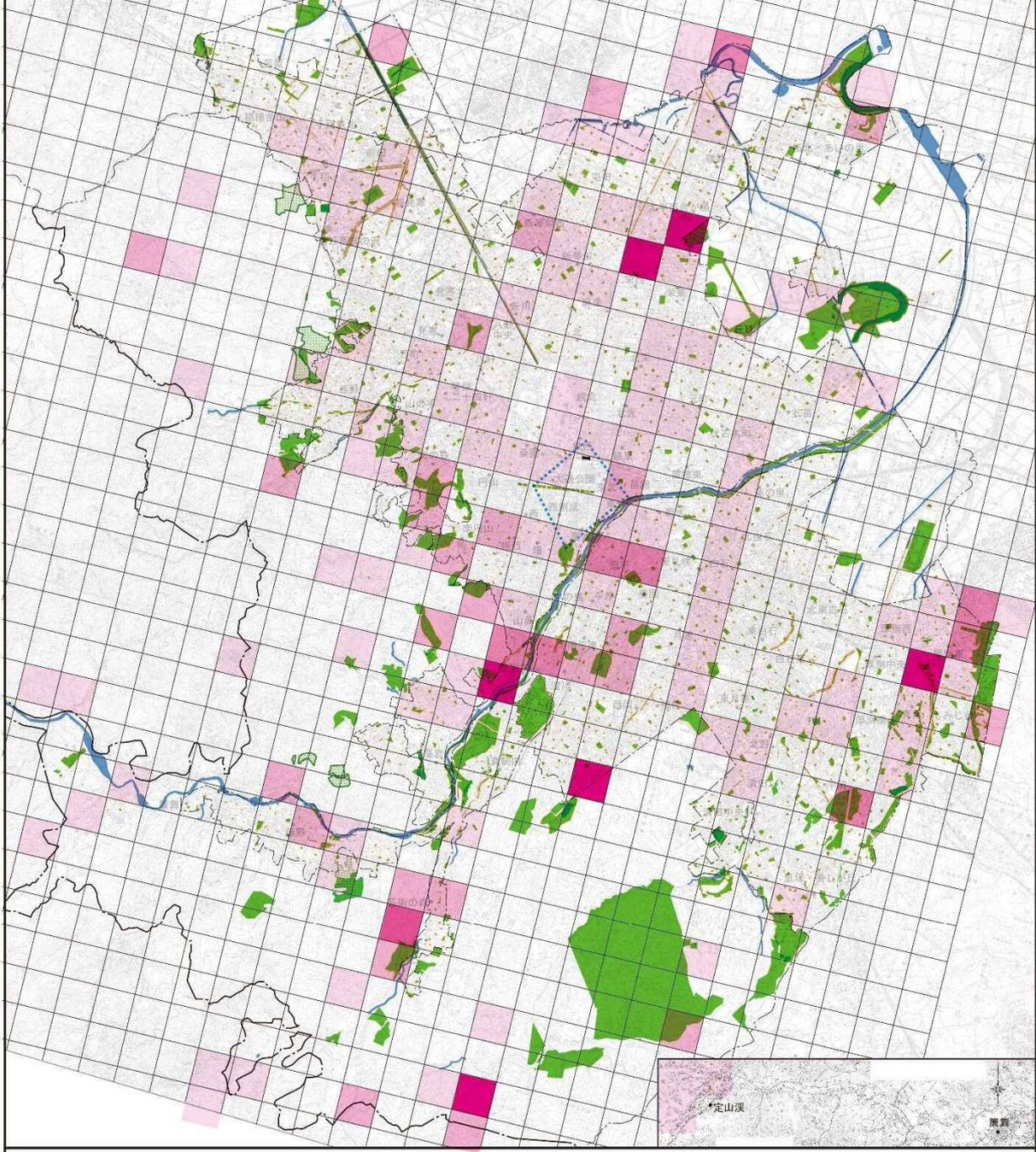
カ. 生物の分布状況

(さっぽろ生き物さがし 2016 報告箇所の環境区分)

- 市民参加型の生き物調査「さっぽろ生き物さがし 2016」の調査結果では、山地丘陵や河川だけでなく、平地部の都心、市街地でも報告があげられており、動植物が市内に広く分布する状況となっている。
- 報告箇所の環境区分をみると、市街地では大規模な公園緑地を有するエリアでの報告が多くなっている。



さっぽろ生き物さがし2016 調査対象動物の分布
 ※対象動物(キツツキ、トンボ、チョウ、クワガタ、マルハナバチ)の報告件数



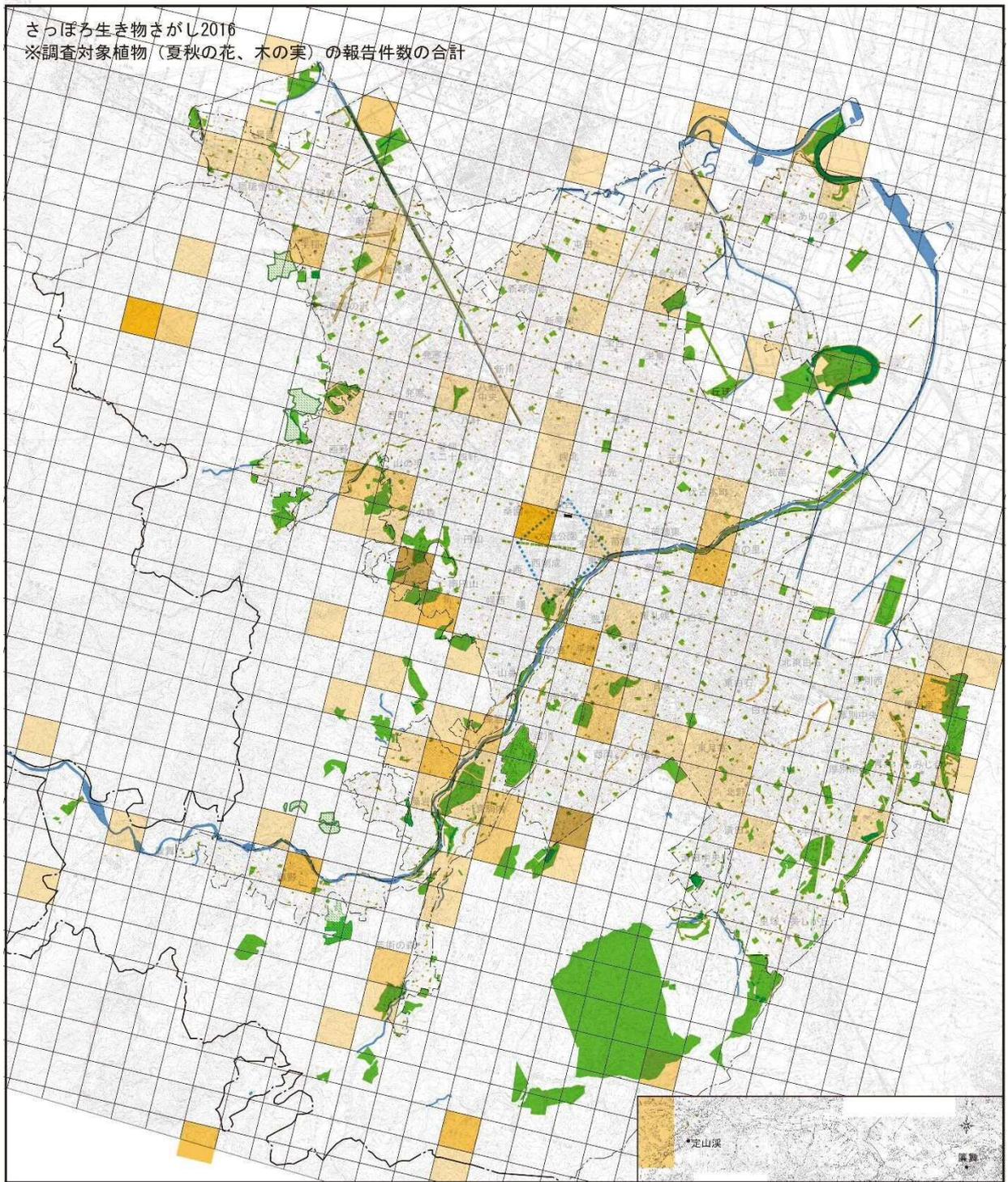
- | | | | |
|--|------------------------------|--|--------|
| | 都市公園、緑地、オープンスペース等 | | 1~10件 |
| | 保安林および保安施設地区 | | 11~20件 |
| | 都市環境林、特別緑地保全地区、
河川、地域のみどり | | 21~30件 |
| | 道条例保護地区、市民の森 | | 31~40件 |
| | 市街化調整区域 | | 41件以上 |
| | 都市計画区域 | | |
| | 都心 | | |

3次メッシュ(1km×1km)

S=1:100,000
 0 1000 2000 3000



さっぽろ生き物さがし2016
 ※調査対象植物（夏秋の花、木の実）の報告件数の合計



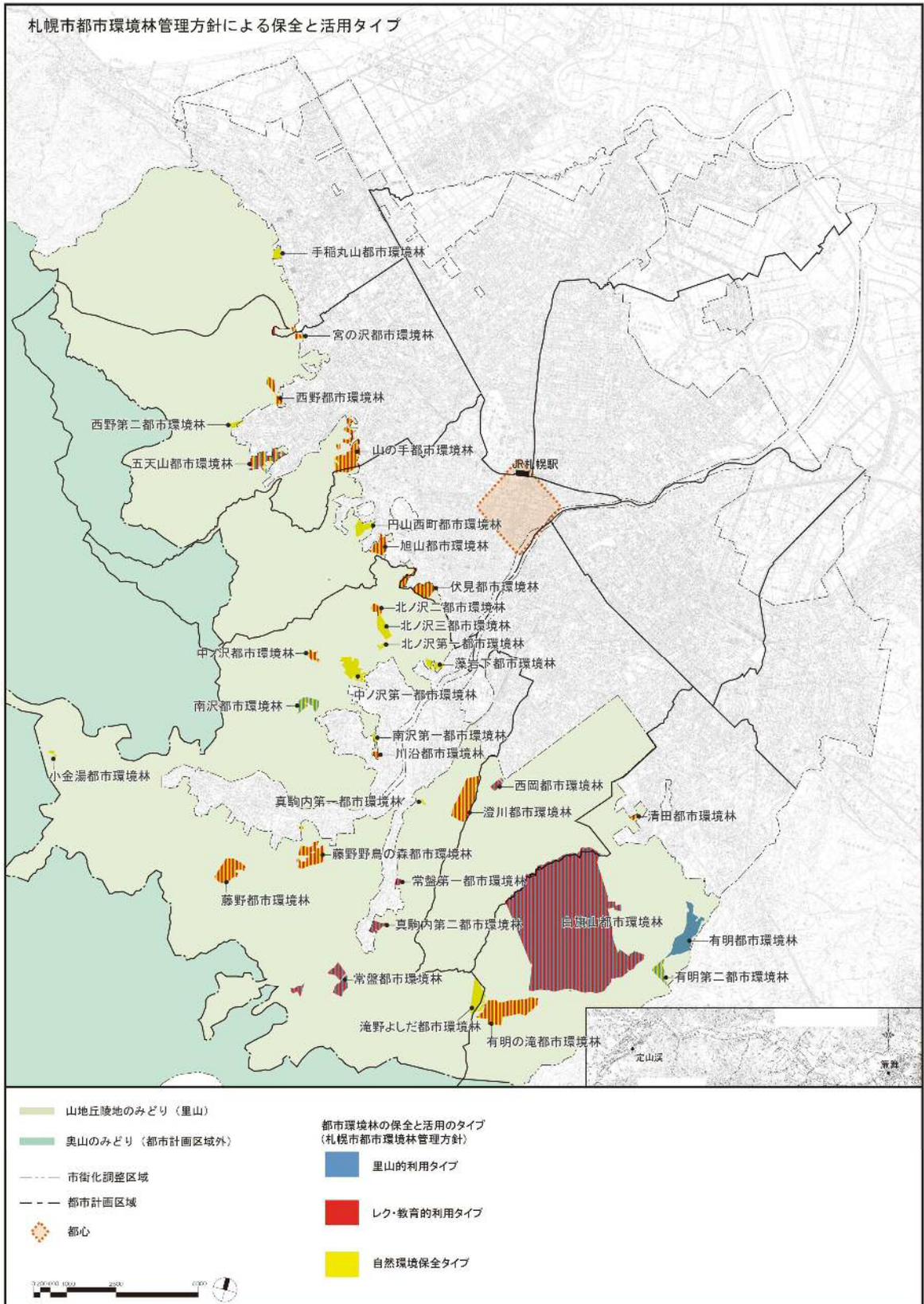
- | | |
|------------------------------|--------|
| 都市公園、緑地、オープンスペース等 | 1~5件 |
| 保安林および保安施設地区 | 6~10件 |
| 都市環境林、特別緑地保全地区、
河川、地域のみどり | 11~15件 |
| 道条例保護地区、市民の森 | 16~20件 |
| 市街化調整区域 | 21件以上 |
| 都市計画区域 | |
| 都心 | |

3次メッシュ(1km×1km)



キ. 都市環境林

- 都市環境林は、都市近郊林の保全・活用を目的として主に市街化調整区域の
民有林を公有化した樹林地である都市環境林は、現在、37箇所、約
1,728ha を指定してされている。
- 平成30年には、「札幌市都市環境林管理方針」が策定され、管理手法と森
林特性ごとに保全と活用の方向性を示している。

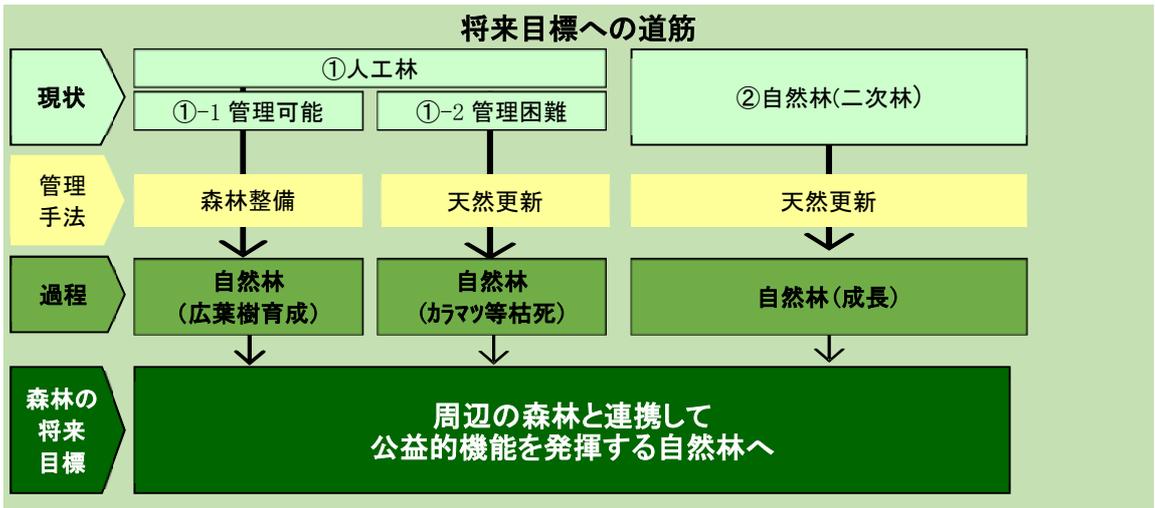


長期目標 大都市近郊に残された貴重な自然として、森林の多様な公益的機能の維持増進を図り、森林の保全と市民のレクリエーションの場としての活用を図る。

基本方針

- ①森林の特性に応じた管理手法により、森林の有する公益的機能の発揮を目指す。
- ②都市環境林の立地条件や施設内容に応じて、都市近郊に残された貴重な自然環境の保全と活用を図る。
- ③森林ボランティア活動の促進を図り、市民と協働による森づくりを進める。

森林の基本的な管理手法



保全と活用の方向性

保全と活用のタイプ	里山的利用タイプ	レク・教育的利用タイプ	自然環境保全タイプ
森林の特性とタイプ条件	<ul style="list-style-type: none"> まとまった面積の人工林（1 ha以上）を有する。 アプローチが可能である。 市民団体による利用実績があるか、または今後期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> すでに散策路等があり、市民による利用がある。 隣接する緑地に散策路があり、連携することによって利用促進が期待できる。 散策や観察に適した自然資源を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全すべき景観や良好な自然環境を有する。 二次林であっても周辺の貴重な自然林と一体的に保全を図る必要がある（緩衝機能を有する）。 自然の推移に任せることで、自然林へと移行することが期待できる。
保全と活用の方向性	<p style="text-align: center;">森づくり体験</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林ボランティア団体と管理方針や長期目標を共有しながら、協働の森づくりを進める 市民による森づくり体験の場（植栽や間伐等）としての活用を図る。 隣接する緑地等で活動する市民団体との連携を図り、都市環境林の活用を促進する。 間伐材の利用促進 	<p style="text-align: center;">レク・教育的利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の森林レクリエーション（登山や散策、自然観察など）の場として、散策路等の施設を維持・整備を進める。 都市環境林の利用を通じて、地域の多様な自然環境や森林の持つ公益的機能についての理解を深め、環境学習の場としての活用を図る。 隣接する公園などの緑地との連携を図り、一体的な活用を図る。 	<p style="text-align: center;">保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域特有の生物多様性の維持、保全を図る。 良好な都市環境の形成のため、住宅地に近接する景観林・緩衝地として、良好な自然環境の維持・保全を図る。 水源涵養、土砂流出防止や防風保安などの森林の持つ公益的機能の維持を図る。